

自己評価結果及び考察・改善方策

<学校生活アンケートより>【全校生徒・保護者を対象に R5.7月と11月に実施】

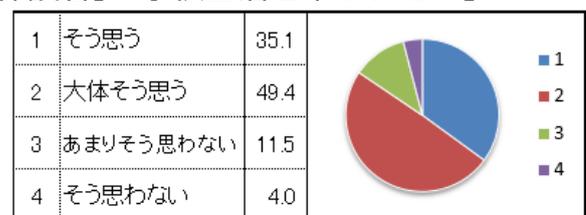
- 生徒は「学校生活が楽しいですか」という質問に対して、92.2%（昨年度 92.7%）が「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。保護者は「お子さんは、学校生活を楽しいと感じているようですか」という質問に対して、84, 5%（昨年度 83.5%）が「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。

昨年とほぼ同じ水準で推移しており、「生徒がよりよい未来を創るために必要な資質・能力を育む」ことを基本方針として、本年度の活動の見直し、来年度の教育活動の改善を図っていきます。

【生徒】「学校生活が楽しい…」



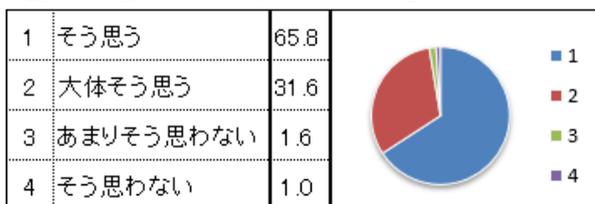
【保護者】「学校生活を楽しいと…」



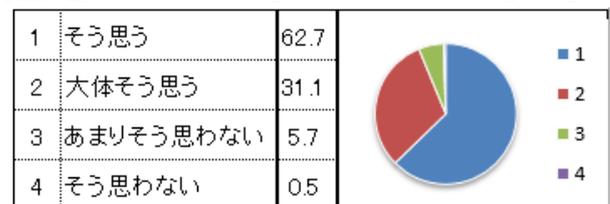
- 生徒は「先生は、勉強が分かるように教えてくださいませんか」「先生は、「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」と思うような授業をしてくれますか」という質問に対して、97, 4%（昨年度 95.0%）、93.8%（昨年度 93.2%）が「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。

90%以上の生徒が、高評価を付けており、「複線型の学習を導入し、授業改善、学力向上を図っていく」ことを校内研修で継続しながら、授業改善を図っていきます。また昨年度の課題であった「タブレット端末が学びを支えるツールとして活用できる」ことは93.1%（昨年度 82.8%）と高評価であり、来年度も引き続き行内研修を図っていきます。

【生徒】「勉強が分かるように…」



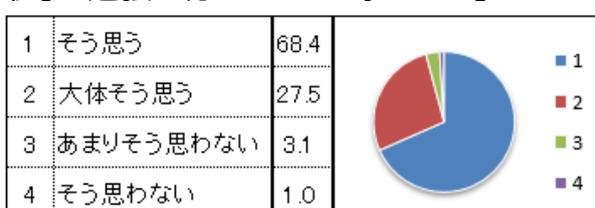
【生徒】「知りたい」「やってみたい」…」



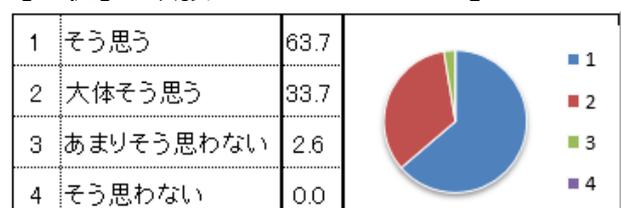
- 生徒は、「勉強が分からない時には、先生が手助けをしてくれますか」「先生は、頑張っていることをほめてくれたり、困っているときに相談にのってくれたり、助けてくれたりしますか」という質問に対して、95.9%（昨年度 94.6%）、97.4%（昨年度 93.6%）が「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。

90%後半の高評価を生徒達が付けていることから、生徒達にとって先生方が日頃から近くに寄り添い、声掛けをしていることで90%後半の高評価につながっていると考えられるため、来年度も生徒達に日頃から近くに寄り添い、継続的に声を掛けるようにしていきます。また、教科相談の時間の充実を図ることや朝活動、帰りの会の声掛けや語り掛けを充実させていくことで生徒達が相談しやすい環境を整えていきます。

【生徒】「勉強が分からない時には…」

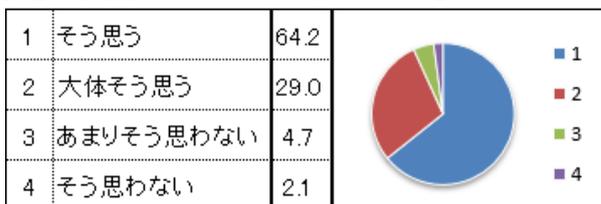


【生徒】「頑張っていることを…」



- 生徒は、「自分のクラスは楽しく、教室は安心できる場所ですか」という質問に対して、93.2%（昨年度91.8%）が「そう思う」「大体そう思う」と回答しています。前期より「そう思う+大体そう思う」約4%上昇（「そう思うは約10%上昇」）「人間関係プログラム」の継続や、「ピアサポート」の実施など計画的に人間関係トレーニングを進めてきたことで、安心感のある学級がつくられていると考えられる。また2大行事を行うことで、学級での人間関係が向上してきたと考えられ、来年度も適切な時期にピアサポートや人間関係トレーニングや行事を行っていき、人間関係を構築していけるように年間計画を計画していきます。

【生徒】「自分のクラスは楽しく…」



全体として

- 生徒アンケートでは、ほとんどのアンケート項目で90%を超えており、概ね良好な結果が得られた。来年度の計画では生徒の活動を継続していきながら、向上させる方向性を考えていく。
- 生徒アンケートで、「地域の活動に積極的に取り組む」「将来に対する夢や希望をもっていますか」という質問では80%台であった。「地域の活動」への取り組みに関しては、前期よりも向上しているため、コロナウイルス感染症が5類に代わり、ボランティア活動が増えてきたことや、教師側からの地域ボランティア（佐鳴湖クリーン作戦や協働センター祭、地域防災訓練）への呼びかけを行ったことで変化してきたと予想できます。来年度は、教師側からの呼びかけも地域ボランティアへの参加を促すとともに、市全体の図書館ボランティアや保育ボランティアなどのボランティアへの参加も積極的に参加を促し、地域貢献や心の教育を図っていきます。「将来に対する夢や希望」についても、総合的な学習の時間の「佐鳴湖学習」「多文化共生・職業学習」「みらいの浜松」などを充実させていくことや、講話などを計画的に行っていくことでキャリア教育の充実を図り、生徒達が自己をみつめ、好きなこと、やりたいことが考えられる時間を増やしていくように年間計画を構築していきます。

<令和5年度の学校運営協議会より>

◇いじめ防止基本方針に基づく取組み

- ・ 学校生活アンケート「学校生活は楽しいですか」の結果で「そう思わない」と回答した生徒の具体的なフォローはどのようになっていますか。
  - 月一回のアンケート（こころのけんこうチェック）を行い、生徒の変化を捉えている。また、いじめ対策委員会を週一で行い、情報交換をしながら、心の部分に寄り添い取り組んでいる。また気になる生徒には担任を中心に聞き取りを行い、学校・学年でも対応している。
  - 学期に1回、アンケート後に二者面談を行えるよう計画を年間計画に入れていく。
- ・ いじめ対応研修では決められたガイドラインに基づいて行われていると思うが、どういった状況になったら保護者に情報共有するのか。どのような基準か。
  - 相談や情報を得た場合、保護者と情報を共有して、同じことを繰り返さないようにしている。
- 来年度もいじめ防止基本方針に基づき取組みを継続し、生徒に寄り添った対応を心がけ、保護者と情報を共有していきます。

◇外国につながる生徒の指導・支援

- ・ 『放課後勉強会』のボランティアの方の基準は設けているのか。
  - 現在基準を設けているわけではないが、ボランティア養成講座を受け、いろいろな小中学校で勉強会を行い、佐鳴台小で10年以上勉強会を行っている団体の協力を得て行っている。
- ※ 外国につながる生徒の指導・支援に関する課題や支援方法について学校運営協議委員と共有し、改善策について検討した。
  - タブレットにあるツールの活用、教師・生徒など全体でケアができる体制が必要になる、支援員の入る数を増やしていきたい、教育委員会への働きかけを行っていく
- 外国につながる生徒の指導・支援については、今後も検討を継続し、教育委員会にも働きかけを行っていきます。